（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　令和8年4月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105230
法　人　名	医療法人 みらい
事 業 所 名	グループホーム はるかぜ新屋敷
所　在　地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町4番1号 （電 話）099-222-0321
自己評価作成日	令和8年3月1日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ＮＰＯ法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ケ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和8年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

鹿児島市中心部に位置していますが、甲突川河畔に近く、春には満開の桜を眺めながら散歩を楽しめたりと、季節感を感じられる環境にあります。入居者様のしたいこと、出来る事を尊重したケアを目指し、自立支援を念頭に置き、入居者様が、安全、安心に毎日の生活が送れるようなケアを実践できるようにしています。食事以外の時間は特に決めず、個々のリズムで生活できるよう支援しています。食事には力を入れており、季節に応じた旬の食材を提供し、行事の際には職員全員で考えた特別メニューを提供しています。入居者様が充実した生活を送れるよう、定期的に外出行事なども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は、町内会の総会・清掃活動に参加したり、地域行事の祭りや運動会にも参加している。運営推進会議にも町内会から複数参加してもらい情報共有している。地域ボランティアの受け入れも行っている。児童クラブの子供達から七夕飾りや季節の展示作品も届けてもらっている。高校・大学の実習生の受け入れも行っている。
・食事は、季節に応じた旬の食材を使って提供し、行事食の特別メニューも利用者が楽しみにしている。
・母体医療機関と24時間医療連携体制が整っており、家族の安心になっている。主治医・訪問看護師の協力を得ながら、看取りも行っている。
・管理者は地域の役員やグループホーム協議会の役員もしている。職員が意欲をもって働けるように、休憩時間の確保や有休取得にも配慮し、職場環境・条件の整備にも務めている。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内の目の届く場所に理念を掲示し、毎日の全体申し送り時に職員全員で唱和している。また定期的に職員同士で理念が実践出来ているか確認している。	理念は、パンフレットに掲載し玄関ホールに掲示している。毎朝の申し送り時に唱和しミーティングでも話題にして日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の一員として交流を行っている。	町内会に加入し総会や清掃活動、地域行事の祭りや運動会に参加している。高校・大学の実習生の受け入れも行っている。児童クラブの子供達が季節の掲示物を届けてくれたりボランティアの受け入れ、散歩時の挨拶等、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議においては定期的に認知症や介護に関するテーマを設けている。また地域の方々からの相談も随時お受けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では民生委員、町内、ご家族の皆様に参加頂きホーム運営の報告や話し合いを行っている。	会議では事業所の状況報告をし毎月テーマを決めて行っている。認知症についてや介護保険等の話・独居の方の相談等の意見交換をしながらサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で地域包括支援センター職員と情報交換したり、市の相談員訪問も受け入れている。	市の担当者とは電話で相談やインターネットで報告も行っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員も参加し情報交換をしている。相談員の受け入れも行っていて、協力関係ができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングで身体拘束廃止委員会を開催、ホーム全体で身体拘束について正しく考える機会を持ち、事業所内では日々のケアを振り返り身体拘束について学び、話し合う機会を持っている。	身体拘束廃止委員会を毎月のミーティング時に開催し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。スピーチロックについても気を付けながら職員間で声かけを行っている。施錠は夜間のみで出かけたい人には職員が付き添って散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待に勉強会を開催しケアの振り返りや学びの場を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見人制度を利用している利用者もおられる。制度についての勉強会も年に一度行っている。また後見人制度を利用用としている方への情報提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際には重要事項を確認しながら説明し同意を得ている。また改定の際には都度説明を行い同意を得たうえで同意書に署名を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に意見箱を設置している。第三者委員(ご家族、地域の方々）を設置し、意見、要望を発信しやすいようにしている。	2ヶ月毎にホーム便りを発行している。面会時に家族から要望や相談が多い。運営推進会議にも家族が参加され意見を出されることもある。先日体操をさせてほし等の要望があり職員と話し合い、本人の状態を見ながら取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定期的にヒヤリングを行い職員の意見や提案を聞いている。運営についてはミーティングで活発な協議が出来るよう努めている。必要物品の購入についても職員の意見を検討されている。	職員はミーティング時に必要備品購入希望や行事担当職員からも要望があり、定期的に職員とのヒヤリングも行っている。提案や意見を聞いて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格手当や昇給等、有給取得率の向上など職員が意欲を持ち働けるように条件整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修、その他外部の研修にもできるだけ参加するように心がけている。ミーティングで研修報告を行い他の職員の学ぶ機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム協議会の支部役員を務め他法人職員とも交流を行っている。また法人内の他グループホームとも交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もない入居者様とはゆっくり時間をかけコミュニケーションを取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は連絡を密にとり、家族が安心できるように努めている。どの職員も対応できるよう情報共有し、家族の意向が組み入れられるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に合わせ訪問診療、訪問歯科診療、マッサージなど必要に応じて他のサービス利用も受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事手伝いをして頂いたり（食器拭き、洗濯物畳み、新聞紙畳み等）することで 生活の一部分を役割として担って頂いている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	２か月に一度施設の新聞を作成しホームでの生活のご様子を家族に送付している。またコロナの中でも窓越しでの面会などを支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に制限はあるものの電話や最近ではネットを利用したTV電話にての面会を支援している。	面会は電話で予約してもらっているが、毎日来られる家族もいる。スマホを使って話をする人、家族と買い物や外食・外泊する人もいる。理美容は訪問や出かけたりで、その人のニーズに併せている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりを持ちにくい利用者には職員が間に入り、関わりを深める手助けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には必要な情報共有を病院、施設などと行い、退去後も必要な際には連絡を取り合い相談等承っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向のある方については、できる限りそれらに応えるよう努めている。本人の意思表示が困難な場合は家族や後見人と相談している。	ゆっくりしている時や入浴の時に話をする人もいる。作品を作る人は材料購入したい、マンガを読みたい等と言われた人もいた。困難な場合は家族や後見人と相談しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、ご家族、事業所からの聞き取りに加え、入居されてからも随時生活歴などの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングで入居者様一人一人のカンファレンスを行い、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの中で痰と職員全員で意見を出し合い、モニタリングを行い、現状に即したケアプランを作成している。	介護計画は本人・家族・職員・訪問看護師の意見を聞きながら作成している。モニタリングは毎月のカンファレンスの中で、見直しは半年で行っている。状態変化に応じて随時見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容、食事やバイタル情報などは毎日PC等に記録し職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、外出や他科受診等、ご家族と相談のうえで、柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として地域の方々との交流を図っている。運動会、餅つき，六月灯など町内会の催しにも参加し交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については母体病院だけでなく、入居前の病院や訪問診療など柔軟に対応している。	利用開始前からのかかりつけ医の人、母体医療機関の人もいて訪問診療を受けている人もいる。職員が受診支援を行っている。24時間医療連携体制ができていて情報共有を図りながら適切な医療が受けれるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療を受けられている利用者様については情報を共有しながら協力し合い適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には医師や看護師と連携を図り、スムーズな治療を受けられるようにしている。退院時には相談員と連携し、必要であれば事前カンファレンスを設け、スムーズに退院後の生活を送れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を聴き医師や看護師との連携を取り本人らしい最後を迎えられるように職員同士で意見交換を行っている。またそれらについての勉強会も行っている。	利用開始時に重度化・終末期の説明を行い同意書をもらっている。状況変化時は、家族に医師より説明してもらい、本人・家族の意向を確認し、職員とも話し合いをしている。看取りについては訪問診療・訪問看護師と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、施設内研修にて、急変時の対応を学んでいる。元々の利用者の予測される事態には、予め対応方法を看護師や医師の指示を受けておくようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や消防署の協力をもらい年2回火災避難訓練を行っている。地震、水害を想定した訓練も行っており全職員が参加できるように体制を整えている。	年2回避難訓練を、消防署立ち合いと自主訓練を昼夜間想定で実施している。地震・水害想定も行っている。地域の協力体制もできている。備蓄は３日分。 水・米・レトルト食品・カップラーメン等、冷凍弁当のストックも行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄、更衣は特に羞恥心の配慮を行っている。お一人ひとりの思いを伺い、尊重するように心がけている。	勉強会を実施している。名前はさん付けで、入室時のノック・入浴・更衣時・トイレ誘導等の言葉かけにプライバシーを損ねない対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別のペースに合わせて支援している。お一人ひとりの思いを傾聴し、出来る限り希望に沿った支援を職員全員が心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れに沿っての生活になりがちであるが、趣味や散歩、午睡などを職員から問いかけ、その答えで臨機応変に対応できるよう職員間で連携を取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝身だしなみに気を配り、各利用者様がその人らしい姿でいれるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者様には食事の準備、後片付けを一緒に行ったり、行事などでは食べたいもののリクエストを聞いている。	献立は職員が作成し調理を行っている。個々に応じて食事形態を工夫し介助も行っている。行事食も作っている。誕生会はケーキで祝い、プレゼントもある。テイクアウトや外食にも出かけたり食事を楽しんでいる。準備や後片付けを職員と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は個別に摂取状況を把握している。嚥下状態に合わせて形態を変更したり、必要に応じて主治医に相談し不足した栄養を補う処方を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行いうまく磨けていない所はお手伝いしている。必要な入居者様には協力歯科医院の訪問診療も受け入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに応じた支援が行えるようにしている。おむつを利用されている入居者様も多いが、トイレでの排泄を第一に考え支援している。	自分でトイレに行く人やトイレ誘導する人もいる。昼間はおむつの人も複数介助でトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を基にできるだけトイレでの排泄や排泄の自立支援に向けた介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品や果物を提供している。必要な際には主治医と相談の上緩下剤を適切に使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則入浴日が決まっているが、個々の状況、本人の意思により、曜日・時間の融通はつけられるように配慮している。	入浴は週2回～3回にしているが、利用者の意思にあわせて支援している。浴槽につかる人シャワー浴の人、同性介助希望等にも対応している。嫌がる人には声かけの工夫をしたり、着替えだけでも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態をよく観察し、就寝時間を工夫している。眠れない方には、希望にもより飲み物を提供したり、話し相手になるなど支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報はファイルに保管し職員がいつでも目が通せるようにしている。定期的に来訪する調剤薬局の薬剤師により副作用や効能についても理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることに合わせて、家事や簡単な手作業を行ってもらっている。それぞれの利用者様が何が得意で不得意か、やってみたいことは何か、可能性を試行錯誤して支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ以前は花見や、そうめん流しなど外出もあり気分転換の支援になっていた。現在もホーム内で出来るだけ季節を感じられるよう工夫している。	日常的に出来るだけ戸外に出かけられるよう支援に務め、散歩にも出かけている。花見の計画中である。初詣に行ったり、外食に家族にも参加してもらい出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭はホームでお預かりしているが、希望があれば買い物に出たり、職員が代行して買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様本人や家族の意向を踏まえた上で、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い湿度、温度の調整を行っている。また季節がわかるように季節感あるものを飾っている。空気清浄機や加湿器も設置し乾燥、ウイルス対策を行い心地よく暮らせるように工夫している。	掃除が行き届いていて、温湿度の管理・空気清浄機・加湿器も設置し、乾燥やウイルス対策にも配慮している。季節がわかるような掲示物・児童クラブの子供達からのカレンダー等、ゆったりと過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置し、利用者様が思い思いに利用して頂いている。また希望に応じて、玄関部分などで外気浴や日光浴をしてくつろいで頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様の馴染みのものや写真、椅子等の家具をそれぞれの思いで準備され、居心地の良い空間を作って頂いている。	居室は、ベッド・エアコン以外は本人の馴染みの椅子やハンガー・テレビ・家族の写真・仏壇等がおかれていて、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが設置しており、安全に歩行出来る様にしている。居室を迷わない様に、名札や分かり易い目印をつけ、利用者様が混乱せず行動出来る様に配慮している。		

Ⅴ アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない